●発行／帝京大学医学部附属病院 医療連携室 〒173-8606 東京都板橋区加賀2-11-1 TEL.03-3964-9830 FAX.03-3964-9849
●HP／https://www.teikyo-hospital.jp/ ●E-mail／renkei@med.teikyo-u.ac.jp

TEIKYO

医療連携だより［アシスト］

ASSIST

2025.8
No.65

帝京大学医学部附属病院

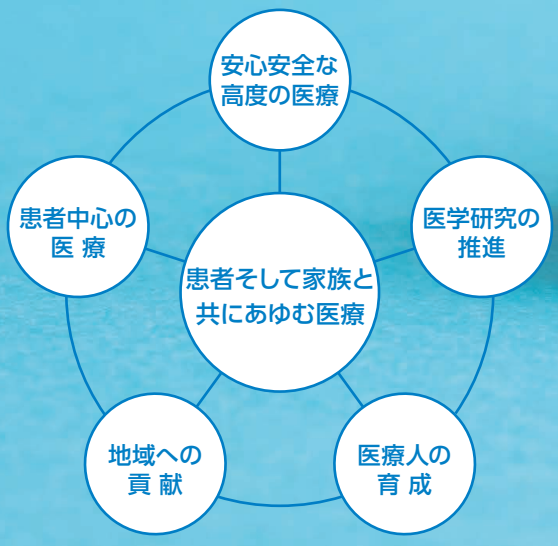
contents

救急科主任教授就任のご挨拶
救急科　主任教授　鈴木　卓

救急科教授就任のご挨拶
救急科　教授・災害医療マネジメント部　部長　黒住　健人

各科との強固な連携のもと迅速で的確な救急医療を実践
高度救命救急センター長　角山　泰一朗

内科教授就任のご挨拶
内科　教授　小田島　慎也



救急科主任教授就任のご挨拶

救急科　主任教授　鈴木　卓

2025年4月より、帝京大学医学部救急医学講座の主任教授に就任いたしました鈴木卓と申します。まずは、皆さまにご挨拶申し上げます。

ご存じのように、救急医療は急な傷病の種類や原因によらず、来院する時間や手段によらず、年齢を問わず、全ての救急患者に提供するものであり、救急科は全ての診療科と連携しながら日々救急医療に従事しています。われわれの施設は東京都内でも数少ない「高度」救命救急センターに指定されており、緊急度の高い患者さんの受け入れと初期診療、さらに重症な場合には救命救急処置や集中治療を行っています。緊急度とは、時間経過が各病態の生命予後や機能予後に影響を与える程度を意味し、簡単に言えば重症化するスピードのことを指します。この緊急度に応じた最適な治療を適時実践するために、救急科は関連各科と連携しながら、救急診療部（高度救命救急センター・ERセンター）と外傷センターにおいて、軽い「病気やけが」から重い「病気やけが」まで幅広く、適切な救急診療を実践しています。

大学の救急医学講座として、将来のために優秀な救急医を育てることも重要な課題です。多くの若手医師が救急領域やそのサブスペシャルティ領域の専門家を目指して日夜頑張っています。大学の救急科に所属している医師数は決して多くはありませんが、医学の発展に寄与するとともに地域の皆さまに安心できる医療を届けることが責務だと感じています。

個人的な話になりますが、私は救急医療の中で骨盤骨折といった技術的難易度の高い整形外科領域のけがの手術を専門としてきました。ただ、救急科は手術や内視鏡治療、画像下治療といった手技だけでなく、病院前救急や災害医療、集中治療、ER（救急外来）、救命救急センター、院内救急対応など様々な分野の集合体です。今後は医局員一同、力をあわせてあらゆる救急疾患に対応していく所存です。当院で治療を受けてよかったと感じていただけるよう、頑張っていきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

救急科チーム

高度救命救急センターのウェブサイトはこちら▶

救急科　主任教授・救急診療部　部長

鈴木　卓（すずき　たかし）

1994年　名古屋大学医学部　卒業
1997年　横浜市立大学付属市民総合医療センター
1999年　国立長野病院　整形外科
2002年　北里大学病院　救命救急センター　助手
2007年　デンバーヘルスメディカルセンター　留学
2010年　北里大学病院　救命救急センター　講師
2014年　帝京大学医学部附属病院　外傷センター　准教授
2022年　同　教授
2025年　4月より現職

【所属学会・資格】
- 日本救急医学会評議員、専門医、指導医
- 日本整形外科学会専門医
- 日本整形外傷学会理事
- 日本外傷学会評議員
- 日本骨関節感染症学会評議員

救急科教授就任のご挨拶

救急科　教授・災害医療マネジメント部　部長
黒住　健人

私は帝京大学医学部附属病院（以下、当院）に赴任して、本邦初となる大学病院の外傷センターを発足し13年勤務いたしました。その後、虎の門病院に移動し新しい部門である外傷センターを立ち上げ3年間勤務し、この度当院で災害医療マネジメント部を発足することとなりました。

一般に救命救急センターでは救急医が主体となり、救命を第一目標とした医療が展開され、preventable trauma death（適切に治療していれば防ぎ得た外傷死）が減少し、一定の成果を挙げていました。一方、四肢の外傷に精通した外傷整形外科医の関与が不十分で、preventable trauma disability（適切に治療していれば防ぎ得た機能障害）が相当数発生していると推定され始めました。現在でも救命救急センター併設の外傷専門施設は非常に少なく、当院は重症外傷を扱える外傷センターの、本邦における総本山であると考えられます。

私は、救急科専門医と整形外科専門医をバックグラウンドとして、この preventable trauma disability を減少させるために四肢外傷治療の現状を把握・分析し、問題点を抽出し、改善する必要があると考え治療に当たっています。このことにより、個々の治療法のみならず、人的・物的資源の適切な配置等の医療体制を含めた問題に対して、根拠に基づいた改善方法を医療者および社会へ示すことができるでしょう。またこれらを達成し続けるためには、当院の高度救命救急センターと外傷センターの両方を順調に運営することが必要で、私はその繋がりを保つ役を担えると考えています。

また当院は、東京都災害拠点病院承認指定として災害医療のマネジメントが求められています。私は、近年多発している災害に対して能登半島地震を含め、ほぼ全ての国内災害に対応しました。それらの経験をもとに、日本整形外科学会においても災害対応委員会を立ち上げ、研修を含め体制整備を行ってまいりました。また、海外の災害に対しても国際緊急援助隊やNPOを通じて積極的に関わっています。災害医療の体制整備全般に関しても、引き続き尽力していく所存です。

2024年能登半島地震巡回診療（HuMA提供）

2015年ネパール地震（HuMA提供）

外傷センターのウェブサイトはこちら▶

救急科　教授・災害医療マネジメント部　部長
黒住　健人　（くろずみ　たけと）

1992年　大阪医科大学医学部　卒業
1992年　岡山大学医学部附属病院　整形外科
1992年　岡山労災病院　整形外科（麻酔科）
1994年　高知県立安芸病院　整形外科
1996年　神野病院　整形外科
2004年　Universitätsklinik Des Saarlandes, Klinik Für Unfall-Hand-Und Wiederherstellungschirurgie (Germany)
2004年　高知県・高知市病院組合立高知市民病院　整形外科
2005年　高知医療センター　救命救急センター
2007年　Department of Orthopedic and Trauma Surgery CHR Metz-Thionville Bon-Secours (France)
2007年　Department of Orthopedic and Trauma Surgery Paris Saint Joseph Hospital (France)
2009年　帝京大学医学部附属病院 救急医学講座 外傷センター
2022年　虎の門病院　外傷センター
2025年　帝京大学医学部 救急医学講座 災害医療マネージメント部

【所属学会・資格】
- 日本救急医学会 専門医
- 日本外傷学会 専門医 評議委員
- 日本災害医学会 評議委員
- 日本航空医療学会 指導者
- 日本整形外科学会 専門医
- 日本整形外傷学会 理事 評議委員
- 日本手外科学会 専門医 指導医
- 日本体育協会公認スポーツドクター
- 日本リハビリテーション医学会 専門医
- 日本リウマチ学会 専門医
- 日本医師会認定産業医
- Orthopedic Trauma Association International Member
- AO trauma member
- 日仏整形外科

各科との強固な連携のもと迅速で的確な救急医療を実践

高度救命救急センター長
角山 泰一朗

２０２５年４月１日より高度救命救急センター長に就任しました角山泰一朗と申します。何卒よろしくお願いいたします。

私は１９９９年に医学部卒業後、一貫して救急医療に従事してまいりました。特に外傷外科を専門としております。外傷外科医という名前自体が日本ではなじみがありませんが、世界的には主要な外科の一分野です。しかし体幹部外傷手術が稀である日本では外傷外科修練は困難であるため、修練の場を海外に求めて２００８年に渡米し、３年間外傷外科をアメリカで学びました。その後複数の国で外傷外科医として修練を積んでまいりました。帰国後の２０１１年７月から帝京大学医学部附属病院（以下、当院）高度救命救急センターに所属しております。

当院の高度救命救急センターは伝統的に外傷診療を得意としており、頭部外傷、整形外科、体幹部外傷などのいかなる外傷にも対応が可能な日本随一の外傷診療を行う施設です。多岐にわたる外傷疾患に対して、多様性をもった治療を休日夜間も含めて対応しており、他の大学病院、救命救急センターからの転院も受け入れております。もちろん外傷診療のみならず、各科のサポートのもといかなる救急疾患にも迅速に対応可能なのがhigh volume センターです。

救急医の真骨頂は迅速かつ的確な初期診療ですが、初期診療に引き続いた集中治療も非常に重要であり、体外循環含めた集中治療にも力を入れております。

専門性が強く規模が大きい大学病院ですと各科とのスムーズな連携が困難になりがちですが、当院においては各科との連携がいかなる時間帯においても円滑であり、一刻を争う救急疾患に対してスピーディーな診療が実践できています。

また救急外来に２０１７年よりハイブリッドＥＲを導入しております。ハイブリッドＥＲは、患者さんが直接搬入される初療室にＣＴと血管造影機器を完備しており、ハイブリッドＥＲを所有する救命救急センターはまだ多くはありません。迅速なＣＴによる診断、血管内治療、蘇生的手術を初療室で行っております。

地域医療に貢献するとともに、日本の救急医療をリードする救命救急センターを目指して精進してまいります。ご支援、ご指導のほど何卒よろしくお願いいたします。

愛犬、十兵衛

高度救命救急センター長
角山　泰一朗　（つのやま　たいちろう）

1999年　山梨大学医学部　卒業
同年　東京女子医科大学　救急医学講座
2008年　Trauma surgery fellowship(University of Miami, Jackson Memorial Hospital, Ryder Trauma Center)
2011年　帝京大学医学部救急医学講座　助手
2012年　Trauma surgery Supernumerary trainee (Charlotte Maxeke Johannesburg Academic Hospital, South Africa)
2018年　帝京ちば医療センター　救命救急センター　講師
2019年　帝京大学医学部救急医学講座　講師、病院教授を経て、
2025年　4月より現職

【所属・資格】
●日本救急医学会
●日本外傷学会
●日本外科学会
●日本Acute Care Surgery学会
●日本IVR学会
●救急専門医・指導医
●外傷専門医
●外科専門医

高度救命救急センターのウェブサイトはこちら▶

内科教授就任のご挨拶

内科　教授
小田島　慎也

2025年4月1日より、内科（消化器）教授に就任いたしました小田島慎也と申します。私は2017年10月に当院の内科に講師として着任し、以来消化管腫瘍の内視鏡診断・内視鏡治療を専門として当院の内視鏡診療に携わってきました。

私は2000年に、北海道大学医学部を卒業して医師になりました。ちょうど私が専門で行っている内視鏡的粘膜下層剝離術（ESD）が、本邦で開発された時期でありました。

ESDは、理論上内視鏡的切除の適応となる消化管腫瘍はほぼすべて内視鏡で一括切除できる、当時では非常に画期的な治療法でありました。そのため私が医学生であったESD以前の時代は内視鏡で根治できる消化管腫瘍、特に胃がんはかなり限定的で少数であったと記憶しています。消化管がん以外の疾患に対しても、その当時の内視鏡診療では関わることができる処置は多くはなく、内視鏡医はどちらかというと診断をつけることが主な仕事である印象が強くありました。

そのような状況の中で私は2002年に消化管腫瘍の内視鏡診療を専門に選んだのですが、その後配属となった研究室がESDを開発した代表的な施設の一つであったため、内視鏡診断と内視鏡治療を専門的に学ぶことになりました。

その時期から現在までの20数年で、内視鏡診断・内視鏡治療は日本を中心に大きく飛躍しました。現在では、様々な疾患に対して非常に精度の高い診断を内視鏡で行うことができるようになり、さらには内視鏡関連機器の進歩と内視鏡技術の向上によって多くの消化管腫瘍を内視鏡的に治療できる時代になってきています。

私が部長として併任している内視鏡部では、現在本邦で行える最新の診断・治療の多くを、最新の機器を用いて行っています。内視鏡診療は、今後も更なる内視鏡関連機器の進歩と診断学・治療学の向上により進化していく分野です。私は当院の内視鏡部門の責任者の一人として、その進歩を国内外に発信しながら、当部門の発展に寄与していきたいと考えています。

内視鏡治療中の様子

消化器内科のウェブサイトはこちら▶

内科　教授
小田島　慎也　（こだしま　しんや）

2000年　北海道大学医学部　卒業
2000年　東京大学医学部附属病院　内科
2001年　関東中央病院　内科
2002年　亀田総合病院　消化器内科
2004年　東京大学医学部附属病院　消化器内科　医員
2008年　東京大学医学部医学系研究科　修了
2008年　東京大学医学部附属病院　光学医療診療部　医員
2010年　同　検診部　助教
2011年　同　消化器内科　助教
2017年　帝京大学医学部附属病院　内科　講師
2018年　同　准教授
2021年　同　内視鏡部部長
2025年　同　教授

【所属学会・資格】
●日本内科学会認定内科専門医
●日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
●日本消化器病学会専門医

帝京大学病院では紹介状があれば初診でも予約※ができます。※事前にお電話下さい

医療連携の流れ

帝京大学病院では、かかりつけ医との機能分担をすることにより、専門的な治療（手術、入院、精密検査など）をおこないます。

患者さん

紹介状
（診療情報提供書）
・専門的な治療
・精密検査
（MRI・CT 検査）
・入院
・手術

逆紹介・ご返送

ふたり主治医制

（紹介状のない方は選定療養費として7,700円ご負担いただきます。）

帝京大学医学部附属病院
予約専用（医療連携室）
03-3964-1498

予約受付時間
平　日　8：30～17：00
土曜日　8：30～12：30

初診受付

診療受付時間
平　日（予約あり）8：30～14：30
（予約なし）8：30～11：30
13：00～14：30
土曜日　8：30～11：30

紹介状をお持ちの患者さん

①予約電話（03-3964-1498）までお電話ください。
電話予約の際にご確認させていただく項目（お名前、生年月日、性別、住所、電話番号など）
②予約完了
③当日は15分前までに初診受付までお越しください。

紹介状をお持ちでない患者さん

◎初診受付　【診療受付時間】
平　日 8:30～11:30
/13:00～14:30
土曜日 8:30～11:30
直接初診受付へお越しください。
※当日の診察状況によっては受診できない場合もございます。

帝京大学病院正面経由 国際興業バス発車予定時刻表

王子駅発 時刻表

赤羽駅西口発 時刻表

帝京大学病院 正面玄関 王子駅行 時刻表

帝京大学病院 正面玄関 赤羽駅西口行 時刻表

上の地図は略図のため、実際の地形とは異なりますのでご注意ください。

❶ JR埼京線 十条駅
- 北口より徒歩約10分
- ②番のりばより赤羽駅西口行き 赤50H（約7分）「帝京大学病院正面」バス停 下車 ※
- 北口タクシーのりばより約5分

❷ 都営三田線 板橋本町駅
- A1出口より徒歩約13分
- A1出口より約6分

❸ JR埼京線 板橋駅
- 西口①番のりばより帝京大学病院経由、王子駅行き 王22（約10分）「帝京大学病院」バス停 下車
- 西口より約9分

❹ JR各線 赤羽駅
- 東口⑤番のりばより高円寺駅北口行き 赤31（約11分）「姥ケ橋」バス停 下車徒歩約5分
- 西口⑥番のりばより王子駅行き 赤50H（約15分）「帝京大学病院正面」バス停 下車 ※
- 西口より約12分

❺ JR京浜東北線・東京メトロ南北線 王子駅
- 北口⑥番のりばより帝京大学病院経由、板橋駅行き 王22（約12分）「帝京大学病院」バス停 下車
- 北口⑦番のりばより赤羽駅西口行き 赤50H（約15分）「帝京大学病院正面」バス停 下車 ※
- 北口より約9分

❼ 東武東上線 上板橋駅
- 北口①番のりばより王子駅行き 王54（約13分）「姥ケ橋」バス停 下車徒歩約5分

❽ 東武東上線 ときわ台駅
- 北口①番のりばより王子駅行き 王54（約9分）「姥ケ橋」バス停 下車徒歩約5分
- 北口より約12分

※「帝京大学病院正面」バス停は 赤50H のみ経由します。時間帯によっては 赤50 の運行となりますのでご注意ください。
赤50 に乗車した場合は、「上十条四丁目」バス停下車徒歩約5分となります。

※所要時間は日中平常時、最短時間の目安となっておりますので、時間帯や道路状況により異なります。

タクシーをご利用の場合　バスをご利用の場合　徒歩の場合

帝京大学医師会からのお知らせ

【 産業医研修会について 】

帝京大学医師会では、日本医師会認定産業医のための産業医研修会を毎年開催しております。帝京大学医学部附属病院で研修を受けながら、認定に必要な50単位を1年間で全て取得することが容易となりますので、是非ご参加ください。開催日程等の詳細は帝京大学医師会ホームページをご覧ください。

▼詳細はこちら

帝京大学医師会ホームページ
URL　http://www.med.teikyo-u.ac.jp/ishikai/workshop/